

武生商高が全国表彰

「デパート」実習や検定評価

商業高校長協会

越前市の武生商高は商業教育の向上に大きく貢献したとして、2016年度の全国商業高校長協会の学校表彰を受けた。全校生徒が主体となった販売実習「武商デパート」や、検定試験に対する取り組みなどが評価された。同協会に加盟する商業高校など全国の1421校から3校が選ばれた。(大谷純平)



生徒「活動認められ誇り」

学校表彰は同協会が08年度から行っており毎年2、3校を選んでい。県内では、13年度の福井商高に続き2校目。同協会によると、全国10ブロックのうち顕著な成果を上げたとして推薦があった6ブロックの6校について3月に審査した。

武商デパートは1991年度から続く同校の代名詞ともいっべき取り組み。地元企業と連携しながら、生徒が営業や仕入れ、販売、経理・決算を行う。昨年10月に同校で開いた「本店」には1日で約4千人が訪れた。

検定試験では、全国商業高校協会(全商)が主催する9種目中、3種目以上合格した3年生が過去最多となり、同校初の「9冠」達成者も出た。ほかに、吹奏楽部は4年連続で全国大会に出場。市や観光協会と連携した観光教育にも取り組みなど、教育活動全般が評価され、16年度のキャリア教育優良校の文部科学大臣表彰を受けた。

今月22日に都内で表彰があり、近江昌平校長が賞状と盾を受け取った。生徒会長の木村光貴さん(3年)は「文武両道を目指してきた学校活動が認められ誇らしい」と笑顔。今年度の武商デパートの社長を務める青木花蓮さん(同)は「デパートが続いてきたのは地域の方々や企業のおかげ。(さまざま分野で)日本一を目指す学校にいられることがうれしい」と喜びを表していた。

近江校長は「表彰されたのは学校だが、生徒一人一人が自分の夢に向かって頑張った活動の結果」とたたえていた。

受賞を喜ぶ(右から)近江校長、木村さん、青木さん。29日、越前市の武生商高